

# 水源地・流域への「感謝」

福岡市は、水源地・流域の皆さまのご理解とご協力のもと、水源の多くを市域外に頼っています。じゃ口をひねると、水が出る。その向こうには、水で結ばれた水源地・流域があることに改めて思いをはせ、感謝の気持ちを持ちながら、これからも安全で良質な水道水を供給していきます。

## 筑後川からのめぐみ

福岡市は、水源地・流域の方々や関係団体などのご理解とご協力を得て、昭和47(1972)年に江川ダムから取水を開始し、昭和58(1983)年から、筑後大堰地点より取水された筑後川の水を、福岡地区水道企業団の牛頸浄水場を経由して、水道用水として受水しています。現在、福岡市で使用される水の約1/3を筑後川から導水しています。



筑後大堰

## ■水源地との交流事業

朝倉市や大分県日田市、佐賀県吉野ヶ里町などの水源地において、植樹や下草刈りなどの活動を通じた交流や、子どもたちに水の大切さを学んでもらう体験学習などを実施し、水源地・流域との連携・相互理解を図っています。



交流運動会

〔水をつなぐ流域交流in下戸河内(朝倉市)〕

### 参加者から

親子で一緒に楽しみながら植樹をするという貴重な体験ができました。環境や水の大切さについて考える良い機会になりました。



下草刈り

〔200海里の森づくり(日田市)〕

### 参加者から

都市部の生活に、水源の山々が深く関わっていること、また実際に自分で下草刈りの作業を行ってみて、改めて森林保全の大変さや大切さを知ることができました。



自然散策

〔弥生の都吉野ヶ里交流事業(吉野ヶ里町)〕

### 参加者から

福岡の水がどこをたどって家にきているのかがよくわかりました。「水を大切に」とただ言うより、今日の経験の方がより真剣に考え行動するきっかけになりました。

## ■市民等との共働事業

森林には、雨水を蓄えてきれいにするなどの働き(水源かん養機能)があり、このことから森林は「緑のダム」とも呼ばれています。

水源の森林を守るため、福岡市水道局では、水源地の皆さまと協力しながら、様々な取り組みを行っています。

### 〔水源かん養林の整備支援〕

水源地自治体が行う、ダム周辺の水源地かん養林の整備を支援しています。

### 〔市民団体活動への助成〕

市民団体が、水源地で水源かん養林の保全や住民との交流等を行う場合、経費の一部を助成して活動を支援しています。



水源かん養機能を高めるための間伐作業



水源地域住民と市民団体による植樹

# 水源確保のための福岡市の様々な取り組み

政令指定都市で唯一、市域内に一級河川がないなど、水資源に恵まれていない福岡市は、様々な創意工夫により、水源確保を行ってきました。そして何より、2度の大渇水を経験した福岡市民の高い節水意識(=市民ダム)も、貴重な水源のひとつです。

## 【海水淡水化施設からの受水】

福岡地区水道企業団では、福岡都市圏の新たな水源として、平成12(2000)年に海水淡水化施設整備事業に着手し、総事業費約408億円を投じ、平成17(2005)年より、国内最大の日量最大50,000m<sup>3</sup>(うち福岡市配分水量16,400m<sup>3</sup>)の海水淡水化施設が稼動開始しました。



海の中道奈多海水淡水化センター(愛称:まみずピア)

## 【揚水式ダム】

福岡市の水がめである長谷ダム・久原ダムは、全国でも珍しい水道専用の揚水式ダムです。揚水式ダムは、河川の流水が豊富な時期に、下流の河川水をポンプアップし、2つのダムに貯水します。ダム建設適地の制約等により、流域面積(集水面積)が小さなダムでも、疑似的な流域面積を広げることにより、渇水時などに、より効率的な水利用が可能となります。



下流の河川からポンプアップした水の吹き出し口(写真は長谷ダム)

## 【市民ダム】

令和3年度市政アンケートでは、92.2%の市民の方が「節水に心がけている」と回答。全国値80.5%\*と比べても、市民の皆さまに高い節水意識が定着しています。

この高い節水意識のもと、家事用(一般家庭用)の一人1日当たり平均使用水量は約200ℓと大都市の中で最も少ない水準となっており、一人ひとりの節水意識は、「市民ダム」として、貴重な水資源となっています。

(\*内閣府H26「水循環に関する」世論調査)

6月1日「節水の日」ポスター